

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	ウガンダ南東部ブソガにおける伝統宗教の動態
氏名 Name	下部 伊織
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	人間・環境学研究所 共生文明学専攻 修士課程・2年
渡航国 Country	ウガンダ共和国
渡航日程 Travel schedule	2022年 9月 7日 ～ 2023年 2月 28日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本調査では、ウガンダ南東部ブソガをフィールドに、近代化や世界宗教の台頭により変化を余儀なくされている伝統宗教の司祭である「アバスエジ」の動態を文化人類学的に考察する。

現代ウガンダでは、キリスト教やイスラム教といった世界宗教が定着し、伝統宗教の信者は減少の一途をたどっている。しかし伝統宗教は、変化を伴いながらも依然として一定の存在感を示しており、キリスト教信者であっても時には伝統宗教を頼り呪術的实践を行うことが知られている。

古典的な近代化論では、近代化により呪術的实践は順次消滅していくと想定されていた。しかし、近代化する社会の中でも、伝統的宗教としての呪術的实践は、変化を遂げながら現代社会に適応する形で存在している。そのような伝統宗教の一端を担うアバスエジは死霊や精霊といった超自然的存在と交流し儀礼を執行する人々である。彼らには呪術的なクスリを用いて治療を行う呪医としての側面もある。近年では社祠を診療所に改装するなど、伝統医療の担い手としての側面を強化し、活動の軸を変化させていくアバスエジの存在が知られている。

本調査は、このように現在も変化を続けているアバスエジの現状の姿を把握し、その変化の背景となっている事象を理解することを目標とし実施された。研究手法としては主に参与観察とインタビュー調査が採用された。

成果 Outcome

本調査は東部ブソガブギリ県に属するブカゴロ村を主なフィールドに、アバスエジ及び近隣住民、また病院などの近隣施設を対象として実施された。本調査では特にブカゴロ村近辺に社祠を持ち活動しているアバスエジに注目し、彼らの具体的な活動を参与観察した。

以下では本調査における成果を、①現在のアバスエジの活動、②アバスエジを取り巻く背景、の二つの観点からまとめる。

① アバスエジの活動

ブカゴロ村近辺におけるアバスエジの主要な活動は、社祠を訪れる依頼者の抱える問題の対処である。依頼内容は病気の治療が主であるが、それに限らずビジネスの成功祈願、結婚に関する諸問題の解決など多岐にわたる。アバスエジは社祠に依頼者を受け入れ、精霊や伝統的な製法によるクスリの力を使いこれらの依頼に対処することで報酬を得て生活している。ブカゴ

口村住民の大部分は自分たちが口にする食料を生産し、残りを換金して暮らしている農民であるため、現金収入を得る手段に乏しい。そのためブカゴロ村において現金収入を得る手段を持つアバスエジは平均的な住民に比べ多かれ少なかれ富裕である。またアバスエジの他の活動として、儀礼の執行が挙げられる。南東部ブソガでは双子が生まれた際や、新たに首長を選ぶ際に伝統的な方法での儀礼が行われる。アバスエジはこれらの儀礼の執行者としての役割を持つ。しかしこれらの儀礼の頻度は低く、アバスエジは大部分の時間を依頼者の対処に充てている。

基本的にはどのアバスエジも全ての依頼内容に対処可能だが、それぞれ得意分野があり、依頼内容にはやや偏りがある。例えばブカゴロ村に社祠を構え1日に平均して10人以上の依頼者を受け入れているW氏は、悪霊(mukyeno)による攻撃を原因とした病気の治療やビジネスの成功祈願を得意とする。ビジネスの成功祈願の評判が高く。そのため依頼者は近隣のみでなく、首都であるカンパラや第二の都市であるジンジャなど、数十キロ以上離れた大都市からも頻繁に訪れ、W氏にビジネスの祈願を依頼する。大都市に居住する依頼者は富裕であることが多く、W氏は平均月収が日本円にして約3000円のブカゴロ村において、月に3万円以上の報酬を得ている。またブカゴロ村の隣村であるナマココ村に社祠を構えるS氏はビワラ(Biwala)という病気の治療を得意とする。ビワラの主な症状は腹痛や下痢、高熱であり、原因についてはアバスエジや村民によって見解は様々であるが、嫉妬心を持った他人による魔術が原因として挙げられることが多い。またビワラは近代医療では治せないとされており、病院に通っても症状が改善されなかった患者がS氏の社祠を訪れるパターンが多い。平均して1日4~5人の依頼者がS氏の社祠を訪れるが、内の半分がビワラ患者である。

以上のようにアバスエジの主要な活動は、社祠に依頼者を受け入れ、依頼者の抱える問題に対処し報酬を得ることであり、また個人としての力量と評判が収入額に直結するなど、いわば個人事業主のようなあり方で活動していることが明らかとなった。

② アバスエジを取り巻く背景

アバスエジを取り巻く背景の中でも医療事情に注目し、特にブカゴロ村周辺において近代医療を提供している施設に焦点を当てて調査を行った。ブカゴロ村周辺には政府の経営するクリニックが1件、私立のクリニックが約7件あるが、どちらも規模は小さく、また常駐しているのはナースや助産師のみで、免許を持った医師に診察してもらうには最低でも2キロ以上離れた街の病院に出向く必要がある。このように常駐医師が不在で設備も乏しいため、ブカゴロ村周辺のクリニックで受けられる治療は怪我であれば消毒などの簡単な手当のみ、病気であれば簡単な診察とタブレット及び注射による投薬のみである。これらの状況では近代医療にかかっても病気が完治しないことや、そもそも原因が特定できないことがままある。ブカゴロ村住民へのインタビュー調査によれば、多くの住民が、病気の際にアバスエジを利用した理由として「クリニックで病気の原因が特定できず、病気が完治しなかったこと」を挙げている。このような医療の状況は、人々がアバスエジを利用する要因の一つと言えるだろう。

今後の展望 Prospects for the future

本調査ではアバスエジを取り巻く医療事情について、特にブカゴロ村周辺のクリニックに焦点をあてて調査を行ったが、近辺において治療サービスを提供しているのはクリニックだけではない。例えばキリスト教系の教会やモスクなども祈りによる治療を提供している。今後の調査ではこれらの宗教勢力も視野に入れ、調査を進めていきたい。



図 1 : アバスエジの社祠